

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

私と安来節

安来節との出会い



指導部員

小村 顕二

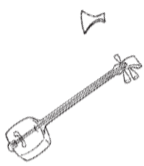
(松江支部)

昭和五十四年十月頃に職場の先輩で、現在資格審査員の原文男先生との出会いです。

まずは、三味線から習い始め、翌年に松江支部へ入会し、三月に審査を受け、たまたま二級に昇格しました。その後、鼓・どじょうすくい踊りと習い始めましたが、最初の頃は仕事の都合などで練習も出来ず、また仕事で審査を受けられないことも度々でした。やっと審査を受けても練習が足りなく留年……。どの種目も難しく、途中、何度もやめようと思った事がありました。原先生や皆様方に支えて頂き、全国優勝大会にも出場して入賞や優勝する事が出来、続ける事の大切さや自信にもなりました。

平成五年には三味線が師範に昇格、続いて鼓、どじょうすくい踊りと昇格し、この頃から少しずつですが、種目ごとの楽しさや面白さを感じられるようになりまし。これも偏に安来節を教えて頂きました原先生を始め、諸先生方、皆様方のご指導、ご協力があつたからだと感謝しております。

今後は初心を忘れずに微力ながら皆様方と共に頑張りたいと思っておりますので、諸先生方、皆様方のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



表情を豊かに唄おう安来節

——新しい世紀へのいざない——

並河 健蔵

安来の町の観光ガイドをつとめている友人からこんな良い話を聞いた。安来節保存会の関東の支部に所属するご婦人が、昨年夏の全国優勝大会に参加した翌日に、安来節の歌詞にある名所旧跡を巡ったという。ご婦人は七年前に安来節に興味をもち、まず三味を学び次に鼓を習い、この程唄をうたうという段階に進まれたとのことである。そこで友人は請われて案内したのである。

私は感心して聞いた。一つは全く安来節に縁のない人が、興味をもってこの世界に入られたのが唄ではなくて、三味であることである。多くの民謡の中でも安来節は、三味と鼓と唄と踊りと銭太鼓と多彩に構成されているのが魅力であるが、三味と鼓の「間合い」の芸ともいうべき音曲にまず魅了されたことに感銘を受けた。次に唄おうとする歌詞の内容を知りたいというご婦人の意欲に、私は深く敬意を表したのである。

さて私は昨年の全国優勝大会に招かれて安来市民体育館へ出掛けた。私は敢えて後部座席に掛けてゆったりと聴くことにした。その折の感想を記してみよう。

まず第一に唄い手の声は誰も艶があり、節回しも絶妙で素人にはとて

も真似の出来ないものであり、伸びやかな声調が実にすばらしい。しかし特殊な節回しでは、必ずしも明快に聞こえにくい歌詞もときにはある。

第二に唄い手の顔の表情に注目した。歌詞には名所旧跡の歌、愛と恋の歌、仕事の歌、人生的述懐の歌、神仏にかかわる歌、民俗的な歌など多岐にわたるが、どの歌詞にも真実のこもった心情が溢れている。唄い手はこのことを十分に心得て唄う時に、それにふさわしい情感が顔に表れるのではないか。安来の名所旧跡を巡り歩いたご婦人の心意気に思いをいたしたのである。

唄い手が、それぞれ「持ち歌」を唄うのも味わい深い。関連する歌詞をつらねて唄い、物語性を加味すれば一層面白い歌唱になるのではないか。例えば出雲大社の遷座祭にちなんで、縁結びシリーズを組立てることも、唄で名所をめぐる観光ツアーも演出できるのではないか。

次に、どじょうすくい踊りにも踊り手の顔の表情が極めて重要である。会場の後方で見ていると、踊りの所作はよく分るのだが、折角の表情が見えにくい。この踊りの真骨頂は、所作と表情がぴったりと合うことに

ある。またこの踊りを十分に理解するためには、どじょうすくいの生息を知ることが大切であろう。踊りの中で足に張りついたものが血を吸う蛭であることとを都会の人々は知っているだろうか。どじょうすくいが足に噛みついたと思っても知られない。それでは面白味も半減する。

そこで観客に正しく理解してもらうために、舞台の背景をスクリーンにして、名所旧跡をはじめどじょうすくいの生息を映写することが望ましい。どじょうすくい踊りを一層楽しくと共に、子供たちにとっても社会科の勉強にもなる。

こう考えると、安来節を大衆が親しんでくれるための努力や演出が求められる。唄い手や踊り手の顔や所作の表情は、舞台の横に設けられた大型のスクリーンかディスプレイにはつきりと映写することによって、会場は大いに盛り上がると思う。

安来節の多様な演芸を一段と面白くするためには、豊かな表現力のあつた洗練された司会者の活躍が何よりも求められる。安来節保存会が百周年を迎えて、新しい世紀へ踏み出したこの時に、その限りない発展が期待されることである。

安来節の多様な演芸を一段と面白くするためには、豊かな表現力のあつた洗練された司会者の活躍が何よりも求められる。安来節保存会が百周年を迎えて、新しい世紀へ踏み出したこの時に、その限りない発展が期待されることである。

安来節の多様な演芸を一段と面白くするためには、豊かな表現力のあつた洗練された司会者の活躍が何よりも求められる。安来節保存会が百周年を迎えて、新しい世紀へ踏み出したこの時に、その限りない発展が期待されることである。



私と安来節



昔を思う



准名人
藤江英明
(湖陵支部)

なぜ私が安来節を始めたのか、それは職場の宴会の席で全く唄が唄えなかった辛さ、悔しさでありました。

思えば山陰では安来の日立、掛屋のサトウ造機、宍道のオーエムが金属機器製造会社のトップ企業だったと記憶しております。

物作りが好きだった私は、縁あってオーエム製作所に入社する事が出来ました。昭和三十四年当時の職場の冬場はダルマストーブで薪を焚き、暖をとった事や種々の機械は直結式とベルト式が半々だった事などを記憶しております。時代の進化と共に新機種が次々と導入され、それに対応するべ



准名人
渡部二郎
(松江支部)

私、この度、絃・准名人に昇格させて頂きました。これ一重に皆様方の温かい御支援の賜物と深く感謝申し上げます。これからは頂いた地位を汚す事なく、一層の努力を重ね、保存会のために尽力する所存であります。どうか皆様方のかかわらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

私と安来節との出会いですが、子供の頃からラジオや近所の人達から安来節を聞いて育ち、また保存会がある事や各所で会員の方々の演芸を見聞きして自分なりに安来節を知ってるつもりでした。

く技術を研ぎながら機械加工部門の国家試験である機械技能士、職業訓練士、高度機械熟練技能士等々の資格を取得しながら四十年勤務し、定年を迎える事が出来ました。

さて本題に戻りますが、職場の大先輩で隣町内の故 准名人 小川幸雄先生との出会いが始まりで、昭和四十三年四月に現在の神門支部に入会し、唄二級を取得しました。師の熱心なご指導の元、五十四年に師範、平成九年に大師範、そして今年、准名人に昇格させて頂き、皆様に心よりお礼と感謝を申し上げます。職場魂と唄で授かった沢山の友人との仲、努力、粘り、信頼を車の車輪に置き換え「人との和」を大切にしながら、恩返しの意味で微力ではございますが、一層精進したいと考えます。

なお、以前お世話になりました故人の先生方、現本部役員の諸先生方、会員の皆様方に感謝申し上げますよう、更なるご発展と皆様のご健康を念じて結びと致します。

そして昭和五十年の春、職場の民謡好きな者が集まり同好会を立上げ、講師に三代目富田徳之助先生を呼んだのが本格的な安来節との出会いです。それからが大変でした。まず保存会の基本の唄をおぼえる前に今まで唄っていた自己流を捨てるのに苦労しました。何とか唄える様になり、先生のすすめで五十一年の二月に保存会に入会し、絃も同時に習っていましたので、唄と絃と審査を受け、共に二級に合格しました。なぜか唄より絃の方に力が入り、五十五年には絃・師範、平成九年大師範に昇格し、現在に至りました。これからも健康に注意し、体力の続く限り、初心にかえり楽しく三味線を弾き、安来節を唄い続けていきたいと思っております。

終わりにになりましたが安来節保存会が益々発展する事をお祈り申し上げます。



准名人
安部寿樹
(松山支部長)

昭和五十七年、松山支部が発足し、家元三代目 渡部お糸先生、国尾先生、踊りの森田先生などのご指導を頂けるようになり、私は安来節を本格的に習い始めました。そんな右も左も分からない私が、昭和五十九年に支部長となりました。当時、他のどの支部長さん達も師範以上の方々で、無資格の私はどのようにすれば良いか悪戦苦闘し、苦勞の連続でした。そんな時、当時の支部長会長の中本實夫先生の励ましや松山支部会員に助けられながら、支部の日々の活動や他支部との交流会なども行えるようになりました。

平成二十三年には支部創立三十年大会を開催する事ができ、今では全てが良い思い出となっております。

松山支部の維持、発展に一助出来た事は、私の誇りであり、その褒美として、この度、踊・准名人への昇格を許され、あらためて身が引き締まる思いです。この名誉は、これまでご指導頂いた諸先生方や会員の方々のお陰であり、今後も松山支部の為に尽力する事はもちろん、准名人の名に恥じぬよう精進し、安来節の発展に努力して参りたいと思っております。

今、松山支部も会員の高齢化や新会員の入会者減により、他支部と同様に支部運営に苦慮しております。しかし現在では、唄・絃・鼓・踊・銭太鼓と各部門に師範以上のすばらしい会員達がおられます。今後とも松山支部一同協力して頑張りたいと思っておりますので、今まで通りご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

最後に安来節保存会が益々発展すると共に、皆様方のご健康で多幸である事をご祈念申し上げます。

事務局からのお知らせ

●会報「安来節」に原稿をお寄せください。

安来節との出会いや思い、支部の活動や目標、保存会の今後などなど題は自由です。

いずれも600字程度で顔写真（1年以内の物で使用後は返却します）も併せて送ってください。

●部門別講習会について

今年は、准師範・三段の方を対象に部門別講習会（11月予定）を安来節演芸館にて開催致します。また近くなりましたら支部にご案内致しますので、お申込ください。ぜひとも皆様誘い合っご参加ください。



野々村智寿子 (米子支部)

安来節との出会いは、当時勤めていた職場のクラブ活動がきっかけでした。民謡クラブで安来節を習ったらとの話から指導をお願いし、来て頂いたのが今は亡き国尾先生でした。スタート当初はあまり乗り気がしなかったのですが、週一回来られ、色々と教えて下さいました。練習を続けていくうちに何ともいえない三味線の音色に元氣付けられ、声が出るようになり、昭和五十一年に唄・二級になりました。それ以後、一つ一つ壁を越えるごとに弾みが付き、一生懸命に練習と勉強を重

安来節は滑稽で難しい。 だから好き!



内藤朋子 (関西支部)

この度、光栄にも「唄」の部門で大師範に昇格させて頂き、これまでご指導頂きました諸先生方に厚くお礼申し上げます。

年の瀬も押し迫った昭和五十六年十二月に主人の仕事の関係で広島県の県北にある三次市に家族共々、移転致しました。皆様方もよくご存知かと思いますが、冬は雪が一夜で三センチ位積もることも再々ある山間の町で、孤独で憂鬱な日々を過ごしておりました時、会社の同僚に気分転換とストレス解消にと安来節を勧められ、習い始めま

ね、昭和五十八年に唄・絃を一人前にして頂き、銭太鼓も人前で楽しんで打てるようになりましたが、その頃はまだ銭太鼓審査はありませんでした。国尾先生をはじめ諸先生方のご指導とお力添えのおかげで安来節が大好きになりました。他の民謡もそれぞれ味わいと特色がありますが、安来節独特の難しい節回しと魂を揺さぶる唄の響きに感動し、安来節の虜になりました。また先輩の唄に追いつけと指導を受けつつ、支部内や他支部に競い合いライバルがあり、競い合った事や教えて貰うのではなく、見たり聞いたりしてコツを盗んで自分のものにした一面もあり、ついこの間のように思い出します。

懐かしいけど楽しくて、楽に出来たら嬉しくて、のせてくれます三味・鼓、これが本場の安来節。今後とも保存会の発展と皆様方のご活躍をお祈り致します。

した。そのうち、熱中してしまい審査会まで二月足らずでしたが駄目もとで審査を受けると二級に合格、その後は夢中で稽古に明け暮れ、それから順調に毎年進級して唄と三味線は師範に昇格いたしました。その後、踊り、鼓、銭太鼓も師範に昇格いたしました。

私は思いついたら迷わず実行するタイプで「滑稽で難しい」安来節とは相性抜群で、安来節の無い人生なんて考えられません。

昭和六十四年に大阪に帰り、それに伴い備北支部から関西支部に移籍させて頂き、事務局として、また関西支部高槻教室の責任者として頑張らせて頂いております。高槻観光協会や自治会の催し、また各地の老人福祉センターや敬老会等に出向き「正調安来節」の唄、三味線、鼓、踊り、銭太鼓等を披露し、多くの方に喜んで頂いております。

安来節は非常に奥が深く、これからも多くの諸先生方、先輩の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜り、一生「安来節」に関わり、魅力ある安来節を広めて行きたいと改めて決意を固く致しております。



宮田ケイ子 (北陽支部)

安来節との出会いは、「どじょうすくい踊りを練習しませんか」という一行の新聞欄でした。すぐに入会させて頂き、それから二十六年楽しくて楽しくて、ボランティアやお祭りに出演、辛い時や悲しい時、どじょうすくい踊りが私を支えてくれたなあと思っております。

その後始めた唄と三味線、銭太鼓、特に三味線は苦しみなながら、いつか楽しくなる日を夢見て、頑張ろうと思っております。

今、新しい仲間も増えて、一緒に勉強しております。中には体の不自由な方もおられ、その方は重度のリウマチで普段車椅子の生活をしておられますが、とても前向きな方で皆とどじょうすくい踊りを踊りたい一心で練習を重ね、舞台上立って踊れるようになり、周囲の感動を呼んでいます。他にも家にいたら一日中「痛い、痛い」と寝付いていたのが、教室のある日は、見るだけでも嬉しいと遠方から来て、出来る日は銭太鼓、踊りと楽しんでおられます。心も体も温かく元気にするこの素晴らしい安来節の力に驚いています。

安来節ありがとう!

今年一月十日の唄い初め会では会員表彰していただき、晴れがましく嬉しく思っています。今までに出会った諸先生方、励まし合う仲間のお陰、だとうりありがとうございました。尊敬する北陽支部長、原淳文先生のご指導の元、精一杯励んでいきたいと心新たに決意しております。ごさいます。

支部情報

安来節の元唄 境さんご節の境港市に 大型客船が次々入港



川洋司 (境港東支部長)

魚と妖怪の町が今、対岸諸国への玄関口として、境港市への寄港が相次ぎ、昨年は計十七回、アメリカ・イギリス・フランス・韓国・日本等から一万九千名の来航があり、毎年増加しています。

来航時には岸壁で歓迎セレモニーがあり、その時のイベントは山陰の伝統芸能「どじょうすくい踊り」を船内で行い、歓迎いたします。また大型客船の五万トン〜七万トンクラスの歓迎時は本部道場の方々の安来節で「おもて・な・し」としてお迎えし、歓送時は安来節演芸館より銭太鼓十数名と高校生のマーチングバンドと共に「さようなら、さようなら」と遠く見えなくなるまで手を振って別れを惜しみます。

今後は国際交流、また長い歴史と伝統ある安来節を広く普及宣伝に努めるよう努力致します。



会員の声コーナー

安来節の魅力に学ぶ



岩佐勝雄
(本部道場)

郷土民謡安来節の魅力に惹かれて、早十数年経ちましたが、安来節保存会の方々は、安来節の魅力を熟知され、また安来節の魅力を語るフォーラムの開催など、大いに楽しんでおられる事は言うまでもありません。私も唄や絃など上限のない芸の奥深さに未熟ながらも挑戦できたらと、師匠のもとで楽しみながら

稽古に励んでいる毎日です。孔子の人生訓に「知ること」の上に「好むこと」があり、そして究極は「好むものも楽しむものにはかなわない」とありますが、一度の人生を楽しみに導いてくれる安来節は、時には演芸を見る人に感動と喜びを与え、また長い人生の中で幾度となく訪れる試練や挫折など、安来節の数ある歌詞に何度も元気をもらえることも大きな魅力であると思っています。

ただ、近年は会員数の減少傾向にあるのが残念ですが、少子・高齢化が進む社会環境の中でも、安来節の魅力や学ぶ少年達は、目を輝かせ、自信に満ちて成長している姿を見ると、次世代を担う人としての大切な心まで育む安来節の力を強く感じる事ができます。私も、これらのプラス思考と会員としての誇りを持ちながら、日々精進する事の大切さを改めて学んでいる気がしています。



一場寛詔
(広島南支部)

九月中旬の広島カープ対中日ドラゴンズ戦で、修学旅行生御一行紹介が大アストラビジョンであるスコアボードに掲示された。「安来南小学校御一行様」の文字が十五秒〜三十秒掲示され、安来市からわざわざプロ野球観戦に来られたのだと気付きました。私はいつも一塁側アルプス席で観戦するのですが、その日は二万七千人位の入場にもかかわらず、空席は見当たらない位の熱気でした。ゲームも三回まで進んだ頃、修学旅行生とわかる子供達が何人も立つ

たまま観戦しているのが目に入った。たぶん遠方から来られたんだなと思いい、私の座っている周りの人達に「個人の荷物は足元に置いて修学旅行生に席を空けてください」と大声で言う、何と七席空席が出来たので、修学旅行生に「皆さん、七席空席があるから来なさい」と誘導してあげました。しかしまた、階段付近に十名位、コンクリートに持たれて窮屈そうな姿で観戦しておられ、これはいかんと思ひ、さらに大声で「もう十名位、修学旅行生に席を譲ってあげてください」と言うと、荷物を足元に置いてくださり空席が出来ました。すぐに先生らしき方に伝え、やっと全員が座る事が出来、勇気を出して行動して良かったなと思ひました。

プが反撃し、勝ちムードになってきました。私の隣に座った修学旅行生に「僕達はどこから来られたんですか？」と尋ねましたら、「安来市立南小学校から来ました。生徒十八名、先生方、そして一人父兄と合わせて二十三名です」と言われ、「おお、先程、電光掲示板で紹介されたよ、実は私は安来節ファンでどじょうすくい踊り三段になったんだけど、腰振りが上手くいかず悩んでいるんだよ」と話が進み「おじさん、僕達みんな全種目が出来ます。今度、教えてあげます」と嬉しい会話になった。ゲームは八回を終了して夜も遅くなり、旅館へ移動されたが、先生が「ありがとうございました」とお礼の言葉を言っ下さり、大変気持ち良かった。カープは六対三で勝利した。

平成26年唄い初め会支部競演結果

- | | |
|----------|------|
| 安来市長賞 | 湖陵支部 |
| 安来市議会議長賞 | 加茂支部 |
| 安来市観光協会賞 | 米子支部 |
| 安来商工会議所賞 | 本南支部 |
| BSS山陰放送賞 | 飯神支部 |
| 足立美術館賞 | 江田支部 |
| 家納喜賞 | 大支支部 |
| 安来節演芸館賞 | 支支部 |

事務局からのお知らせ

安来節のしおり
(平成二十五年度版)に
誤りがございました。
追加してお詫びいたします。

【追加】

- 松江支部 P144
- ◆二級
- “ 絃 佐藤治郎
- “ 佐藤美佐子

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

大小鼓製造卸販売



杉本鼓店

住所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。
修理、下取りもご相談ください。